



## OPECプラス、段階的に減産縮小へ 5～7月

【カイロ=久門武史】石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国でつくる「OPECプラス」は1日、協調減産を5～7月に段階的に縮小すると決めた。サウジアラビアも独自の追加減産を縮小すると表明した。

新型コロナウイルスで冷え込んだ原油需要が回復基調にあるのを映した。サウジのアブドラジズ・エネルギー相は協議後の記者会見で、OPECプラスの協調減産幅を5月、6月にそれぞれ日量35万バレル、7月は44.1万バレル減らすと述べた。4月の協調減産幅の690万バレルが5月は655万バレルになる計算だ。

OPECプラスの閣僚が1日のオンライン協議後に出した声明では「5、6、7月の生産水準の調整を承認し、毎月の調整は日量50万バレル以下とする」としている。次回協議を4月28日に開くとした。

OPECの盟主を自任するサウジは協調減産とは別に日量100万バレルの大規模な自主減産に取り組んでいるが、アブドラジズ氏は記者会見で「段階的に元に戻す」と表明した。5月に25万バレル、6月に35万バレル、7月に40万バレル縮小するとした。

市場では5月は現行の協調減産を据え置くとの観測が強かったが、OPECプラスが段階的に減産を緩和すると決めたのを受け、需要回復が確かだとの思惑が浮上した。ニューヨーク市場の原油先物は同日、一時1バレル61ドル台と前日比4%上昇した。

OPECプラスの閣僚協議に先立ち、グランホルム米エネルギー長官はアブドラジズ氏と電話協議したとツイッターで表明。「消費者にとって手ごろで信頼できるエネルギー源の確保に向けた国際協力の重要性を再確認した」と投稿し、原油高をけん制していた。米国はOPECプラスの枠組みに加わっていない。



## サウジ産原油5.8%高

### スエズ座礁、供給停滞懸念

3月積み

輸入原油が一段と値上がりした。サウジアラビア産の代表油種「アラビアンライト」の3月積み価格は1バレル65・42と2月積み比べて3・57バレル(5・8%)高い。上昇

は5カ月連続。3月は欧州などで新型コロナウイルス感染が再び拡大し、世界的に原油需要の回復が遅れるとの懸念が強まった。一方で主産国サウジア

ラビアの自主的な追加減産の継続や、スエズ運河で発生した座礁事故による原油供給停滞への警戒感が強材料となり、アジア指標となるドバイ原油価格が上昇。日本の輸

入価格も押し上げられた。日本の石油会社が長期契約に基づいて輸入する原油は直接取引(ダイレクト・ティールD)原油と呼び、ドバイ原油とオマーン原油の間平均価格に調整金を加減し毎月値決めする。

サウジアラビア産の3月積みDD原油(ドル/バレル、カッコ内)は前月比上昇率%

エキストラライト	65.02(5.8)
ライト	65.42(5.8)
ミディアム	65.17(5.8)
ヘビー	64.72(5.8)



## トウモロコシ・大豆、ストップ高

### 米の作付け予定 想定以下

主要穀物の国際相場が軒並み上昇した。指標となる米シカゴ市場の先物価格は3月31日終値(期近)でトウモロコシ、大豆とも制限値幅の上限(ストップ高)で引けた。トウモロコシは前日比25%高の1.575・64ドル、大豆は70%高の14.36ドルといずれも約1カ月ぶりの高値をつけた。日本時間1日夕の時間外取引でも同水準で推移した。

米農務省が31日に発表した2021年の作付け

向面積(農家が作付けを予定する面積)が向穀物とともに市場予想を大幅に下回ったことが買い材料となった。トウモロコシは約9110万軒、大豆は約8760万軒と、ロイター通信のアナリスト予想をそれぞれ200万軒ほど下回った。

グリーン・カウンティの大本尚之代表は「今回の面積では好天に恵まれても穀物の需給は逼迫する」と指摘。21、22穀物年度の期末在庫は極めて

低水準になるとみる。「先高観から中国が買ってくる可能性もあり、穀物相

場は底堅く推移しそうだ」(フジトミの斎藤和彦チーフアナリスト)との見方が出ている。

1日の国内商品先物市場でもトウモロコシは大幅に反発。一時1.3万1230円まで買われ、中心限月では08年9月以

来12年半ぶりの高値を付けた。

綿花も作付け意向面積が市場予想をやや下回り、国際価格は小幅高となった。「より収入の多いトウモロコシや大豆へ転作する農家がみられる(専門商社)という。」

## ばら積み船、用船料高値

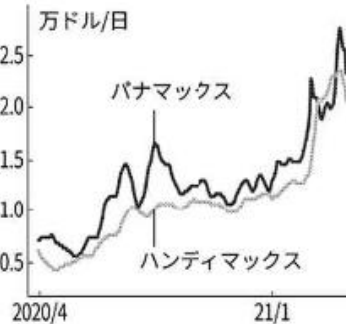
### 中国への輸送増 中型、10年ぶり水準

鉄鉱石や穀物などを運ぶばら積み船のスポット（随時契約）用船料が軒並み高い。中型と中小型は2010年以来約10年ぶりの高値水準にある。足元の用船料は急騰の反動で下げているが、なお高値圏だ。豚の飼養頭数の増加や経済回復が進む中国向けの輸送増が相場を押し上げている。



ばら積み船は鉄鉱石や穀物などを運ぶ

穀物の輸送増で用船料も上昇



大豆やトウモロコシ、石炭といった貨物を運ぶ中型船の指標となるパナマックス（載荷重量約8万ト）の用船料は3月31日現在、主要航路平均で1日あたり2万3000ドル前後。3月中旬につけた2010年以來の高値からはやや下げたが、2

月中旬の高値よりなお2%高く、前年同期比では3・4倍の水準だ。この時期のパナマックスは例年、ブラジルの大豆出荷にあわせて南米周辺に集まる。だが同国では今年の大豆の作付け遅れが響き出荷が遅れた。船が到着しても荷物が港

に到着せず、荷積み待ちが多発していた。沖合での待機船が増えた分だけスポット市場に出回る船の供給が絞られ、用船料が値上がりしやすい素地が続いている。そこに中国による北米産トウモロコシの「爆買

」が重なった。中国はこれまでトウモロコシの自給政策をとってきた。だが現在は家畜伝染病のアフリカ豚熱（ASF）の流行で激減した豚の飼養頭数の回復を急いでおり、飼料となるトウモロコシ需要が増え、大量に調達する必要が生じてい

る。「米国には中国向けの未出荷のトウモロコシ在庫が積み上がっており、今後も継続的な輸送需要が期待できる」（トランプデータサービスの海老原良社長）という。

パナマックスの輸送需要が増えた影響を大きく受けたのが、中小型船のハンディマックス（載荷重量約5万8千ト）だ。ハンディマックスは荷役設備のない港でも荷役ができるようクレーンを搭載しているのが特徴で、穀物や塩、セメントなど様々な貨物を運ぶ。用船料は1日当たり2万1000ドル前後とこちらも2010年以來の高値圏で、前年同期の3・3倍となっている。

中国―米国間の輸送には本来、パナマックスを使うのが一般的。ただ、中国のトウモロコシ爆買でパナマックスの輸送

スペースが足りなくなり、ハンディマックスが代替輸送するケースも増えている。ハンディマックスの船腹需給が引き締められ、用船料は上昇した。鉄鉱石などを運ぶ大型船も需要は堅調だ。指標となるケーブサイズ（載荷重量約18万ト）の用船料は同1万8500ドル。直近安値だった3月上旬の1・6倍で2カ月ぶりの高値となった。

中国では2月の粗鋼生産量が10・9%増の83

00万トと11カ月連続で前年同月を上回った。旺盛な鉄鉱石の需要を背景にオーストラリアやブラジルからの輸送が増えている。この先の南米発の輸送需要増を見込んで船を調達する動きもあるようだ。

スエズ運河で大型コンテナ船が座礁し、一時400隻以上の船が足止めされた。ただ、「ばら積み船の主要航路のうちスエズ運河を通過する荷動きは少ない。復旧期間にもよるが、市況への直接的な影響は限定的だ」（海老原氏）という。

# ウメモト インフォメーション

2021年 4月 2日 担当 小松

仏植物油メーカーを完全子会社化 伊藤忠商事は、資本参加していた、欧州を中心に植物油製造・販売事業を手掛ける仏 Provenance Huiles S.A.S. (PH)の株式を追加取得し、完全子会社化した。PHはグレープシード油、高オレイン酸ヒマワリ油などの機能性の高い植物油を主に扱うメーカー。グレープシード油の生産量は、世界最大規模で資源再利用・循環型商品として知られている。また、仏産原料は種子から精製油までの一貫製造が可能で、厳格な運用が重要なオーガニック油などのサステナブル対応製品に注力。付加価値型植物油の安定供給とSDGsの達成に貢献している。

## 製品値上げ

### 住友化学が

ECHを55円

住友化学はエピクロルヒドリン（ECH）の価格を改定する。5月1日出荷分から1㏎当たり55円値上げする。主原料プロピレン価格が上昇。老朽設備の補修コストも増加している。自助努力で吸収することが困難として安定供給を続けるために値上げを決めた。

### 三菱ケミカルが OPS 28円以上

三菱ケミカルは、5月1日納入分から2軸延伸ポリスチレンシート（OPS）（サントクリア）（ソフトクリア）を値上げする。改定幅は1㏎当たり28円以上。原油・ナフサの高騰などで原料樹脂価格が上昇し、製造コストを押し上げている。継続的なコスト削減に取り組んできたが、自助努力で吸収することは困難と判断し価格改定を決めた。

### 日本化薬が エポキシ樹脂

日本化薬はエポキシ樹脂を値上げする。改定幅はビフェニルホラック型エポキシ樹脂「NCI3000」シリーズ、「CER-3000-L」が1㏎当たり80円、液状エポキシ樹脂「RE」シリーズが同80〜200円、その他エポキシ樹脂が同50円。5月1日出荷分から。昨秋以降、国産ナフサ基準価格や油価が上昇。主原料であるエピクロルヒドリン、ビフェニル化合物の価格も高騰し、溶剤など副原料や物流コストも増加している。自助努力による吸収が困難として、安定供給の維持を目的に値上げを決めた。

### ユニチカがポリ エステル繊維

ユニチカは、ポリエステル繊維を5月1日出荷分から値上げする。値上げ幅は、産業用（長繊維、短繊維）および衣料用（長繊維、紡績糸）はいずれも1㏎当たり40円。衣料用のテキスタイルは10〜20%となっている。原油価格の高騰にともなう原料、輸送費などの上昇に対して合理化策を打ってきたが、自助努力の範囲を超えており、安定供給を維持していくために値上げを決めた。

### スパンボンド 不織布 10%

ユニチカは、5月1日出荷分からスパンボンド不織布を値上げする。値上げ幅は10%で、対象はポリエステル製、ポリエチレン製、ナイロン製、ポリ乳酸製の同不織布。原油価格の高騰により、合繊原料、輸送費、ユーティリティ費用などが上昇。合理化策を推進してきたが、自助努力による範囲を超えた。安定供給維持のため価格改定を決めた。

### 日本精蠟がワッ クス製品 20%

日本精蠟は、5月1日納入分から石油ワックス類などの仕切り価格を現行比20%引き上げる。2018年2月以来の一斉改定となる。19年に顕在化した原油油割増金の高騰や、人手不足を背景とした物流費の上昇が理由。安定供給と事業の継続のために必要なコストとして需要家に理解を求めていく。